

有明海再生赤潮モニタリング委託事業

夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリング

太田 洋志・岩永 卓也・藤武 史行・三根 崇幸

有明海における貧酸素水塊の消長シナリオの構築及び貧酸素水塊の発生予察手法の検討に資するために、夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリングを行った。なお、本課題の詳細については、「令和3年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (3)貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発報告書」で報告した。

方法

図1に示すSt.T2, T13, P6, P1およびB3の計5定点において、2021年7月5日から2021年8月23日にかけて計8回の調査を実施した。調査項目は、表層における植物プランクトンの細胞密度とした。

結果

各定点における*Chattonella*属、珪藻類および渦鞭毛藻類の細胞密度の推移をそれぞれ図2、図3および図4に示した。

*Chattonella*属は、7月12日に初認され、8月2日に最高細胞密度(1,440cells/mL)が確認されたが、その後衰退して8月19日には全ての定点で確認されなかった(図2)。

珪藻類の細胞密度は、7月上旬から8月中旬までほとんどの観測で1,000 cells/mL以下であった(図3)。一方で、8月23日は全ての定点で*Skeletonema*属が増加し(最高細胞密度: 16,570cells/mL, データ未記載), 1,420~17,030 cells/mLと高密度であった。

渦鞭毛藻類は、7月12日を除き、概ね100cells/mL以下の出現であった(図4)。細胞密度が比較的高かった7月12日は*Akashiwo sanguinea*(最高細胞密度: 116cells/mL)および*Ceratium fusus*(最高細胞密度: 234cells/mL)が優占していた(データ未記載)。

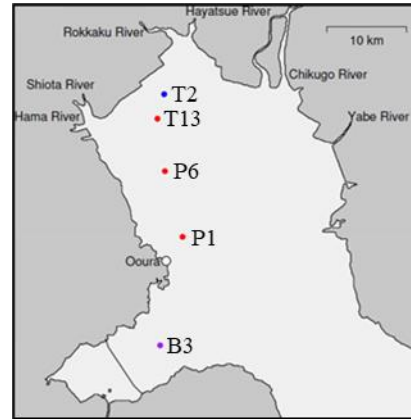


図1 観測地点

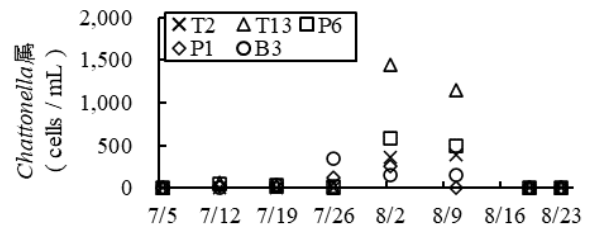


図2 各定点における*Chattonella*属の細胞密度の推移

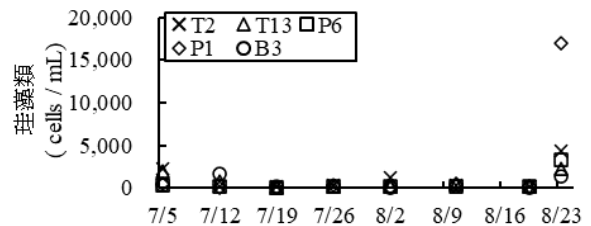


図3 各定点における珪藻類の細胞密度の推移

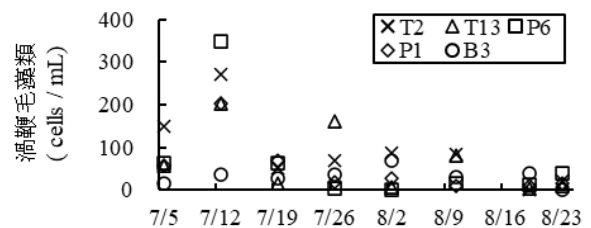


図4 各定点における渦鞭毛藻類の細胞密度の推移